



外国人定着支援日本語システム 検討事業

～新しいタイプの日本語教室のあり方の提案～

群馬県生活文化部国際課課長補佐 太田 祥一

先月号では、2010年7月16日（金）の事例報告会で報告された「災害時外国人支援広域活動ボランティア育成と避難所宿泊訓練事業」について、船橋市よりご紹介いただきました。今月号では同じく事例報告会で取り上げられました群馬県の「外国人定着支援日本語システム検討事業」をご紹介します。

群馬県には多くの外国人が定住しています。多文化共生社会の実現による豊かな地域づくりに向けて、在住外国人が日本人と同じ「地域住民」としてコミュニティに積極的に参加することが必要です。そのための重要な課題の一つとして、コミュニケーション支援のための日本語学習環境の整備があげられます。どのような日本語指導のシステムが有効であるか、そのため必要な課題は何かを検討するため、平成21年度地域国際化施策特別対策事業の助成金を活用して「外国人定着日本語システム検討事業」を行いました。

「群馬県日本語教育の在り方研究会」設置

はじめに群馬県における効果的な日本語教育の在り方に関する課題を協議・検討するため、「群馬県日本語教育の在り方研究会」を設置し、現在群馬県が抱える課題を明らかにしました。さまざまな部門の方々を委員に迎え、より多角な視点から群馬県が抱えている課題を明らかにしました。

○地域の日本語教室の主な課題

- ① 運営主体、指導者（ボランティア）、参加者間で日本語教室に対する目的の共有化がなされていない。

- ② 地域の日本語教室に適した教材があまりない。
 - ③ 地域の日本語教室に適した効果的な日本語教育・学習の手法が確立されていない。
- 外国人児童に関する主な課題
- ④ 外国人児童に対する指導者や適した教材が少ない。
 - ⑤ 何を教えるか、どう教えるかという手法・目標がなく、内容等は現場の教員に任されている。

これらの課題を解決するため、それぞれに仮説を立てそれらを検証するため2つのモデル事業を行いました。

仮説 コーディネート能力を有する日本語教師有資格者による地域に即した教材および効果的な指導法により一定期間で一定の達成感（成果）が感じられる日本語教室により、現在地域の日本語教室が抱えているさまざまな課題解決が可能となる。

モデル事業Ⅰ：成人向け日本語教室 「日本語でできた！」開催

地域の日本語教室に適した新しい方法である“タスク積み上げ型の日本語教育・学習”による日本語教室により検証を行いました。

開催市および市の国際交流協会と新しいタイプの教材、指導方等に関し事前協議を十分



「日本語でできた！」の様子

に行いました。さらに現在地域の日本語教室で活躍されている日本語指導ボランティアの方々とともに協議を行い、意識の共通化を図りました。

教材・指導法の開発に関しては、本委員会の委員でもある伊藤健人（群馬県立女子大学准教授）を中心に行われました。

“タスク積み上げ型”とは、従来の文型を積み上げるものではなく、日常生活での課題（タスク）を積み上げていく方法です。例えば、「再配達の手荷物が受け取れた!」「レストランの予約ができた!」などの比較的単純なタスクを積み上げることで、最終的には「病院で診察が受けられた!」などの大きな複雑なタスクに繋げていくシラバスを作成し、ロールプレイなどを用いて口頭会話能力の向上を目指します。

そして、重要な文型や表現を複数の回に重複して散りばめるスパイラル方式を採用しました。これにより、日本語教室を1回休んだり、途中から参加しても、大切な文型や表現に触れる機会を提供することができます。

上述の手法で行った今回の「日本語でできた!」は、全体を通して出席率が下がることなく、最後まで意欲的に取り組む姿勢が見られました。また、日本語能力に目を向けると、発話量が増えたり、短文レベルでしか話すことができなかった参加者が、複文・段落レベルでの発話が完璧ではないにせよ、行えるようになるという成果が見られました。

仮説 母語習得後来日し、公立学校へ転入した児童を想定。大人向けの日本の教材の転用でなく、子供たちが興味を持てるような公立学校での行事等身近なテーマを使い、ストーリー性のある内容とし、日本語教師の有資格者でなくても一定の研修により学校教員が使いこなせる。

モデル事業Ⅱ：外国人児童生徒向け教材『ゆうき』開発・実践

『ゆうき』は、公立小学校で日本語を学びはじめた外国人児童の初期対応にも応用できる教材として、伊藤健人准教授を中心に関与されました。

登場人物は、日本人のゆうき、ひろこやブラジル人のホセ、ペルー人のマリアなどの公立小学校に通う小学3年生です。場面



「ゆうき」を使った日本語教室

は学校生活での場面を採用し、学校で必要な語彙や表現、さらに日本の学校の知識や情報が十分に含まれるように心がけました。

このテキストの特徴は、外国人児童生徒が身近に感じられるように身近な人物設定と場面設定を基にストーリー性のあるマンガ風に行っていることです。

内容面の特徴としては、すべての場面が学校である点です。掃除や給食、ラジオ体操など、彼らが学校で遭遇する場面を採用し、そこで使われる語彙や表現を提示しています。『ゆうき』を用いた実践では、低学年から中学年まで幅広い児童を対象に行いましたが、どの年齢の子供たちもマンガ風の本文に興味を示し、自分から進んで音読を始めるなど、読もうとする意欲が感じられました。また、まだ日本語が読めない児童も、絵を見て単語を言ったりするなど、進んで学習をする姿勢が見られました。

モデル事業を通して

今回のモデル事業を通して、“タスク積み上げ型”の日本語教室と新しい外国人児童向け教材『ゆうき』に、一定の効果があることがわかりました。また、それと同時に群馬県が抱える慢性的な問題である「人材不足」を解決することが急務であることがわかりました。

現在群馬県は、日本語教育を行いたくても担当する人材（日本語教師有資格者等）が見つからない、という状況にあります。

そこで今後は、日本語教師のバンク化・日本語教師の養成などを含めた、その地域に適した効果的な日本語学習ができる環境整備を目指し、費用負担の検討も含め、引き続き検討を続けていきたいと思っております。